

第429回  
株式会社テレビ新潟放送網  
放送番組審議会

- 1 開催日時 2026年6月15日(月)  
2 開催場所 テレビ新潟本社  
3 委員総数 8人 出席委員 8人

出席委員

小原 清文 委員長	石井 宏明 委員
本宮 宏美 委員	小山 厚子 委員
杉原 名穂子 委員	浜田 泰宏 委員
松山 悦子 委員	

書面での出席

迫 一成 委員

会社側出席者

代表取締役社長	正力 源一郎
取締役コンテンツ本部長	河野 修三
コンテンツ戦略局長兼番組審議会事務局長	小林 健
報道制作局長	中川 幹子
報道制作部長	倉島 実
ディレクター	岡田 健一
事務局	田中 泰輔 坂上 寿史

## 4 議 題

### 1) 番組合評

「ドキュメント新潟 6年3組のヨコ 拉致被害者と呼ばれて」  
2026年5月3日(日) 16:25~17:20

### 2) 会社報告

- ① 5月の視聴者の意見 (報告: 番組審議会事務局)
- ② 講じた措置、議事概要の公表 (報告: 番組審議会事務局)
- ③ 訂正放送、取り消し放送の有無 (報告: 番組審議会事務局)

### 3) その他

## 5 審議の概要

会社側からは「拉致問題の象徴的な『桜の写真』を縦軸に、同級生取材を横軸として展開し、横田めぐみさんを拉致被害者ではなく、『クラスメートに愛されたヨコ』として構成した。古い映像を使うと拉致問題が昔の問題として視聴者に伝わるのではないかと思い、今の視点を大切にしながら、できるだけ新たに撮影した素材で番組を制作した」という趣旨の説明があった。

(委員の意見)

- 横田めぐみさんのいろいろな姿が盛り込まれていて、新潟の街で過ごしていたという姿を想像できた。

- 拉致問題の本質について、番組のテイストを壊さない程度に説明があったほうが良かった。
- 横田めぐみさんについて、今まで写真ベースの二次元で考えていたが、番組を見ているうちに、立体的になっていった。
- 拉致問題について、なぜ政治で解決できないのかと憤りを感じ、拉致問題に関する番組は重要だと感じた。
- 毎年横田めぐみさん再会を誓うコンサートを開催していたのは知っていたが、どんな人がどんな思いで歌っているかを知ることができた。
- エピソードや生々しい話、帰国した方々の現在の言葉など、知らないことばかりだった。今回のようにニュースとは別のかたちで時間をとって伝えることは重要だと感じた。
- 全体の構成やナレーションによる方向づけが強かったように感じた。取材した人たちの言葉で十分に伝えることができたのでは。
- 拉致問題のように、知らなければならぬ事実を丁寧に取材して編集し、それを伝えるのがテレビの役割だと思った。
- ニュースの中の遠い存在の横田めぐみさんではなく、新潟で暮らし、友達と笑い合っていた少女だったということが自然に伝わった。
- 級友の視点から人物像を掘り起こし友達が語ることで、落ち着いた描写ながらも、視聴者の心に強く響きを与えていた。
- 当時の記録などを丹念に掘り起こす取材姿勢は、番組に強い説得力を与えていた。

## 6 会社側の報告

### 1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

5月……160件

### 2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会の開催日(2026年5月18日)から、昨日(2026年6月14日)まで総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

## 7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

### 1) 前回第428回審議会では、

「新潟炊き立てバラエティー おにぎりハウス」について審議を行い、委員の意見は議事概要にて記者、制作スタッフ社内に周知しました。

### 2) 番組審議会議事録を全社員、スタッフに共有しました。

## 8 今回の第429回放送番組審議会の公表

### 1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支局の県内事業所に議事概要の書面を準備します。

### 2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

### 3) TeNYホームページに議事概要を掲載します。

## 9 参考事項(委員への配布資料)

・第428回番組審議会議事録

・5月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表

・BPO報告(No. 289)

・TeNY番組種別報告

以上